



Q：知り合いがくも膜下出血で倒れました。どんな病気ですか？

A：くも膜下出血とは、脳の表面を保護している、脳脊髄液を満たしているくも膜下腔という空間に出血が生じた状態を言います。脳卒中全体の約10%を占め、突然死の原因にもなります。壮年期の人にも多いとされていて、約85%くらいが脳動脈瘤の破裂によるものです。発症すると、その死亡率は約30～45%と高く、植物状態になったり、まひや失語といった後遺症が残ることも多い、怖い病気です。

最も典型的な症状は、“ハンマーで殴られたような”と表

現される、突然の激しい頭痛です。さらに、重症度はさまざまですが、しばしば脳圧上昇を示す血圧上昇や嘔吐がみられます。もし目の前の人が、突然、激しい頭痛を訴えて倒れてしまったら、くも膜下出血を考え、すぐ救急車を呼ぶべきでしょう。予防として重要なのは、脳動脈瘤の早期発見であり、その方法として、い



わゆる脳ドックがあります。具体的には、MRIを用い、MRAと呼ばれる撮像法によって、脳の血管の状態を調べる方法などがあります。

(岡田俊一・おかだ内科クリニック院長、甲府市北口2-9-12、ニシコー北口駅前ビル2F)

☎055・288・1801